

科目名	医療管理学概論		単位数	2	担当教員	やまぐち ひろみ 山口 博美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授業の内容	<p>私たちが病気になった時、まず考えることは「良い病院」で「適切な治療」が受けられるかということです。少子高齢化社会など時代が変化する中で、病院の役割・機能も変化してきました。当講座は、この「医療秘書」の受験資格を得て合格を目指し、就職として人気の高い医療の現場で働くことも視野に入れ、実践で学ぶコミュニケーションや医療全体を考え、将来を見据えて学べる講義にしたいと思います。</p>					
到達目標	<p>1、「医療管理士」の受験資格を得て1・2級合格を目指す。 2、医療全般に精通し、医療に関する法律、介護保険知識を身につけ、患者に信頼される医療従事者としての社会性と教養を養う。</p>					
授業計画	第1回	オリエンテーション 検定に向けての勉強のしかた、講義の受け方				
	第2回	医療と社会の関係 病院事務管理				
	第3回	医療秘書業務（1年のまとめ） P146～				
	第4回	医療施設に関する法規① 医療法の概要と歴史				
	第5回	医療施設に関する法規② P71～				
	第6回	医療施設に関する法規③ P86～ 過去問題				
	第7回	医療従事者に関する法規①（医師法他） P93～				
	第8回	医療従事者に関する法規② P97～				
	第9回	医療従事者に関する法規③ P101～ 過去問題				
	第10回	その他の関連法規① 薬剤師法				
	第11回	その他の関連法規② 保険助産師 看護師法				
	第12回	医療と情報 国民医療費の歴史と基礎的概念 保険の種類と制度 P111～				
	第13回	診療情報 医療費と保険の用語 健康保険の基礎概念 カルテと諸記録 P113～				
	第14回	医療用語と医療倫理についての解説 検定試験の準備				
	第15回	まとめと模擬検定試験実施				
授業に対する予習・復習	予習：教科書を読む。語句、省略英字の意味と医療上の意味を調べノートに書く。			復習：その日の講義ノートをまとめ、練習問題の復習をする。		
	予習に要する学習時間：概ね 90分を目安とす			復習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。		
課題へのフィードバック	試験終了後、その授業時間内で解答し解説を行う。					
成績評価	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（60%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（%）、実技（%）、授業態度（20%）</p>					
教科書						
参考文献						
注意事項	医療秘書実務検定試験合格のためのワークやプリントが多数配布されます。欠席や遅刻者は、自分で配布物を取りに来るなど、自己管理してください。					

科目名	医療秘書実務		単位数	2	担当教員	やまぐち ひろみ 山口 博美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授業の内容	<p>医師、看護師やスタッフとともに患者を支え、そのパイプ役となる秘書は、病院だけでなくあらゆる医療・福祉の現場で求められる人材です。「医療秘書士」の資格を目指してきめ細かな指導をいたします。高齢社会の日本では、医療現場は、今最も注目される職場であり、たくさんの「有難う」と「笑顔」を生むやりがいのある仕事といえるでしょう。毎回 10 分程度の医療手話を練習します。患者を支える特技になるよう生かしてください。</p>					
到達目標	<p>1、「医療秘書士」の検定受験資格をえて、1・2級の合格する。 2、マナーや心理学も同時に学び、実践も交えてより人間的な成長を目指す。 3、医療の現場において特技として活用できる基本的な医療手話を身につける</p>					
授業計画	第1回	医療秘書の概論				
	第2回	医療と社会 その歴史と成立				
	第3回	近代の病院と経営				
	第4回	病院の業務 秘書の一日（理想的な秘書のイメージとは）				
	第5回	業務管理部門 医事課と他の業務の種類				
	第6回	病院組織とマネジメント				
	第7回	医療秘書教養				
	第8回	医療秘書の役割・資質・マナー				
	第9回	ディスカッション（患者の気持ち・ガンの宣告他）				
	第10回	医療の場の特殊性 患者の心理と医療者の対応				
	第11回	接遇 挨拶と病院での身だしなみ・医療コミュニケーション				
	第12回	医療の現場の適切な敬語・態度・倫理観				
	第13回	医療倫理とは インフォームドコンセントと QOL				
	第14回	医療秘書業務に関する検定試験の過去問題集				
	第15回	医療秘書業務に関する検定試験の過去問題集				
授業に対する予習・復習	予習：教科書を読み、語句や省略医療用語の意味を調べノートに書く。			復習：その日の授業のまとめと、練習問題や暗記すべき事項を復習する。		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。		
課題へのフィードバック	試験終了後、従業時間内で、解答解説を実施する。					
成績評価	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（60％）、レポート・課題（20％）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度（20％）</p>					
教科書						
参考文献						
注意事項	手話を学び、実技試験があります。					

科目名	医学一般		単位数	2	担当教員	ふくだ たけすみ 福田 健純
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授業の内容	人体の解剖および生理機能、病態についての基礎知識を器官ごとに PowerPoint を用いて講義していく。身体の中で何が起こっているか、どのようにはたらくているかを理解することで、病気の発生のメカニズム、回復のメカニズムを理解し、治療への応用し、看護、診断の補助に役立てる。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の各部名称を言えるようにする。 2. 人体の器官のはたらきを説明できるようにする。 3. 正常と異常をある程度区別でき、健康と病気の違いが分かるようにする。 4. 病気の治療を考えらえるようにする。 					
授業計画	第1回	身体の構成要素：人体の構成単位である細胞と細胞内小器官について解説する。また、細胞が集会を成すことで行われる組織としてはたらき、個々の細胞による仕事の違いなどについて解説する。				
	第2回	精神機能と情報の獲得：脳の機能としての神経のネットワークの解説、大脳の機能の概説を行う。また、感覚を伝達する仕組みについて説明していく。				
	第3回	神経系Ⅰ：第2回で行った概説をもとに、より詳細な神経のメカニズムを、中枢神経と末梢神経に分けて解説する。				
	第4回	運動器系Ⅰ：骨の種類と構造、骨代謝のしくみ、骨の名称、関節の機能について解説する。また、骨格筋の構造と収縮の仕組みについて解説していく。				
	第5回	運動器系Ⅱ：上肢と下肢の骨・関節の解剖、関節とそれを動かす筋肉の構造、関節の動きの特徴などについて身体の動きをイメージしながら解説していく。				
	第6回	血液循環の機能：①血液の役割として血液成分、酸素・二酸化炭素の輸送について ②循環器系として循環の仕組み、心臓のポンプ機能、血管の機能、循環の調節③組織の抹消循環を解説				
	第7回	循環系Ⅱ：血管系とリンパ系の走行、血管の種類、動脈・毛細血管・静脈の壁構造、血管の分布、血液循環のしくみ、血圧の測定や調節系、リンパ管とリンパ節の構造、リンパ系の循環、リンパの成分について解説する。				
	第8回	血液：血液の成分、赤血球・白血球・血小板の産生、赤血球の酸素運搬能とその仕組み、白血球の種類とそれぞれの役割、血液凝固系のしくみ、血液型、血清の成分、毛細血管圧と膠質浸透圧による体液循環を解説				
	第9回	呼吸器系：呼吸によるガス交換とガス運搬の仕組み、外気にさらされる呼吸器に備わる防御機構、呼吸音、呼吸機能の状態とそれを調べる検査、胸郭を動かす仕組みについて解説する。				
	第10回	栄養の摂取と利用：①三大栄養素とは何か ②消化活動として口から肛門にいたる吸収過程 ③栄養素の利用として吸収産物をどのように利用活用しているかを解説する。				
	第11回	消化器系Ⅱ：肝臓の構造と機能、胆嚢と胆道の構造と機能、膵臓の構造と機能について解説する。				
	第12回	内部環境の維持：①ホメオスタシスとは何か ②体液はどのように調節されているか ③体内エネルギーはどのように調節されているか について解説していく				
	第13回	腎・泌尿器系の領域：おもな腎臓とその疾患として糸球体腎炎、続発性糸球体疾患、前立腺肥大などについて病気の成り立つメカニズム、治療薬について解説していく				
	第14回	防疫の仕組み：①解毒のメカニズム ②免疫の仕組み ③免疫のトラブルについて解説していく。				
	第15回	免疫の領域：おもな免疫に関わる疾病として、炎症、アレルギー疾患、自己免疫疾患、免疫不全 AIDS を解説し、治療薬を紹介していく。				
授業に対する予習・復習	予習： 事前にプリントを配布するので、一読して内容を理解する。講義で行われる出席確認を兼ねたチェックテストで理解を確認する。		復習： 講義分野の配布資料の最後にまとめの質問を掲載しておくので考えておく。この質問内容からテスト問題を作成する。			
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	講義ごとに出席確認を兼ねたチェックテストを行っていく。 講義内容と併せて穴埋め形式でのテストを行っていく。					
成績評価	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 成績評価の方法： 筆記試験 (100%)					
教科書						
参考文献						
注意事項						

科目名	薬学一般		単位数	2	担当教員	ふくだ たけすみ 福田 健純
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授業の内容	医学一般で学習した身体の基礎を応用して病気の成り立ちと、病気の確定に至る過程を各種臨床検査を通じて絞り込んでいく。講義では、PowerPoint および解説集を用いて講義していく。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気の理解ができる。 2. 病気の成因を理解できる。 3. 検査の種類と意義を理解できる。 4. 代表的な治療薬を知ることができる。 					
授業計画	第1回	細胞と組織：人体の構成単位である細胞、細胞の基本構造とはたらきについて解説する。また、DNAの構造と機能、遺伝子の発現についても解説していく。				
	第2回	随意運動の仕組み：運動器としての筋肉、骨、関節の機能、筋収縮の仕組み、エネルギーについての解説および運動のコントロールとして運動の意志、計画、指令、実行、制御について解説していく。				
	第3回	神経系Ⅱ：脳神経と脊髄神経の構造と機能、特殊感覚の受容器で刺激を受け止める仕組み、体性感覚の受容器と伝導路、痛みの種類とその伝導路などについて解説していく。				
	第4回	精神の領域：精神疾患、統合失調症、気分障害(うつ病)、神経症性傷害、睡眠障害(不眠症)について解説し、治療薬の作用機序について解説していく。				
	第5回	運動・神経の領域：てんかん、パーキンソン病、認知症、脳血管障害について解説し、治療薬の作用機序について解説していく。				
	第6回	循環系Ⅰ：心臓の位置と内部構造、心筋の特性、心臓は駆動の仕組み、興奮の伝播と心電図、心周期、圧・容積関係、収縮性とその調節、心拍数の調節について解説する。				
	第7回	循環の領域：おもな循環器の疾病として不整脈、虚血性心疾患、心不全、高血圧を紹介し、それに関わる薬剤について解説していく。				
	第8回	血液の領域：血液の疾病として、貧血、白血病、血栓・塞栓症、血友病を紹介し、それに関わる薬剤について解説していく。				
	第9回	呼吸の領域：呼吸器の疾患として、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、風邪症候群、肺炎、肺結核を紹介し、それに関わる薬剤について解説していく。				
	第10回	消化器系Ⅰ：口、消化管の構造と機能、消化の仕組み、栄養素と溶液の吸収の仕組み、排便や嘔吐のメカニズム、消化管の防御機構などについて解説していく。				
	第11回	消化の領域：消化に関わる疾患として、胃炎、消化性潰瘍、過敏性腸症候群、下痢・便秘、ウイルス性肝炎を紹介し、それに関わる薬剤について解説していく。				
	第12回	腎・尿路：腎臓の構造、糸球体・尿管・集合管の構造、尿生成のしくみ、身体のpH調節・浸透圧・血圧の調節、尿路の構造、排尿の仕組みとその調節について解説していく。				
	第13回	自律神経・内分泌：神経および内分泌による細胞間情報伝達の特徴、視床下部のはたらき、自律神経の分布とはたらき、神経伝達物質と受容体、内分泌器官、ホルモンの種類と機能、ホルモン分泌の調節について解説する。				
	第14回	免疫：免疫系の機序、自己寛容、リンパ球の活性化、抗体、抗原提示、サイトカイン、補体などについて解説していく。				
	第15回	悪性新生物の領域：悪性腫瘍の概要、胃癌、大腸癌、肝癌、肺癌、乳癌、子宮癌について解説していく。				
授業に対する予習・復習	予習： 事前にプリントを配布するので、一読して内容を理解する。講義で行われる出席確認を兼ねたチェックテストで理解を確認する。		復習： 講義分野の配布資料の最後にまとめの質問を掲載しておくので考えておく。この質問内容から後期テスト問題を出題する。			
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。		復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。			
課題へのフィードバック	講義ごとに出席確認を兼ねたチェックテストを行っていく。 講義内容と併せて穴埋め形式でのテストを行っていく。					
成績評価	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 成績評価の方法： 筆記試験 (100%)					
教科書						
参考文献						
注意事項						

科目名	医療事務総論		単位数	1	担当教員	やまぐち ひろみ 山口 博美	
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義				
授業の内容	日本の国民は、すべての人が何らかの保険に加入し、医療サービスを受けられる制度があります。そうした各種保険の仕組み・種類を理解し、医療施設や保険薬局などその役割を理解します。また診療報酬の請求がどのように決定され、実際の支払となっているのかを学習します。私たちは、日常的に使用している保険証は、どんな意味を持つのかを考えると、健康で文化的な生活の中に医療の果たす役割の大きさが見えてきます。高齢社会の日本の医療の現場では、「医療事務」の資格は最も注目される資格といえます。						
到達目標	1、医療保険制度の基礎的知識を得て「医療管理秘書士」の資格を得る。 2、医療保険事務を理解し、演集によって診療報酬請求のスキルを身につけ就職に繋げることができる。 3、医療の現場でこの診療報酬請求の内容を理解し、医療消費者として日常生活の中に生かす。						
授業計画	第1回	医療保険の概略		実演習(1) レセプト意味			
	第2回	医療保険の種類と給付		実演集(2) レセプト基礎			
	第3回	医療保険制度		P111～			
	第4回	全国健康保険協会と組合管掌健康保険		給付の仕組み (3) レセプト実践			
	第5回	国民健康保険制度とその他の医療制度		給付の仕組み (4) レセプト実践			
	第6回	介護保険の概要					
	第7回	医療と情報					
	第8回	報酬請求 総括					
	第9回						
	第10回						
	第11回						
	第12回						
	第13回						
	第14回						
	第15回						
授業に対する予習・復習	予習：医療上の省略語句、カタカナ語句など意味を調べてノートに書く。			復習：授業の内容をまとめて、レセプトなどは転写する。			
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。			
課題へのフィードバック	課題・実技に対し、講評を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験： 実施()する/ (○)しない 成績評価の方法： 筆記試験()%、レポート・課題(50%)、作品・発表()%、実技(30%)、授業態度(20%)						
教科書							
参考文献							
注意事項	休みの集中講座です。講座の期間を確認し必ず出席できるよう夏休みの日程を組んでください。						

科目名	医療保険請求事務演習		単位数	1	担当教員	やまぐち ひろみ 山口 博美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習			
授業の内容	医療保険では、診療行為に対して定められた点数が金額となり、窓口で請求されます。この診療報酬請求事務は、現在日本のどの医療機関でも求められる資格といえます。それゆえ、高齢社会で医療の需要の高まる日本では、大変注目される資格となっています。医療秘書は患者さんに適切な医療サービスを行うと共に正しい請求を行うことで信頼が高まります。丁寧な指導をしますので、しっかり身につけ合格をめざしましょう					
到達目標	1 「医療事務」の資格を得るため、医療保険の基礎的知識を得る。 2、医療事務検定試験で1・2級合格する。 3、診療報酬請求（レセプト）のスキルを身につけ、就職活動で生かせることを目指す。					
授業計画	第1回	レセプトの書き方				
	第2回	①初診料 その意味と計算の基礎知識				
	第3回	②再診料 その意味と計算の基礎知識				
	第4回	③指導管理等 その意味と計算の基礎知識				
	第5回	④在宅医療 その意味と計算の基礎知識				
	第6回	⑤検査（検体検査） 意味・種類・方法				
	第7回	⑥検査（生体検査） 意味・種類・方法				
	第8回	⑦画像診断 現在医療の高度化と意味、種類、方法、計算基礎知識				
	第9回	⑧投薬 処方箋、カルテ 情報の取り方 基礎計算練習 請求書の作成				
	第10回	⑨注射 処方箋、カルテ 情報の取り方 基礎計算練習 請求書の作成				
	第11回	⑩処置・手術 現代医療の高度化、専門化に伴う変化と基礎知識				
	第12回	過去問題の実習 保険請求検定問題のポイント				
	第13回	外来 カルテによる診療報酬請求（レセプト）の記載実習				
	第14回	実演集 カルテによる診療報酬請求（レセプト）の記載実習と計算				
	第15回	実演集 過去問題を時間内で仕上げる実践				
授業に対する予習・復習	予習：テキストを読み、ワークシートは、毎回チェックしておく。			復習：夏休みの集中期間で完全に身に付くよう、毎回プリントで練習する。		
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とす			復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。		
課題へのフィードバック	課題・実技に対し、講評を行う。					
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（ 50 ）、作品・発表（ ）、実技（ 30 ）、授業態度（ 20 ）」					
教科書						
参考文献						
注意事項	夏休み中の集中学習ですので、欠席すると検定合格が困難になります。日程に注意して受講してください。					